

令和2年度 研修計画・構想

富士市立吉原東中学校

1 研修テーマ

「主体的な対話を生み出す授業の追求」

2 テーマ設定の理由

(1) 生徒の実態

ア 授業の様子から

○3年生は、自分の考えを持つことができるが、自分から積極的に発表、表現することは少ない。2年生は、他者と関わることは多いが、他者との対話が生まれる場面は少ない。

イ 生徒の学校アンケートから

○授業が楽しい 81.7% ○気づきや疑問を自分の言葉で発信している 65.4%

○授業中、分かるまで粘り強く課題に取り組んでいる 77.9%

ウ 教師の学校アンケートから

○生徒は授業中、わかるまで粘り強く課題に取り組んでいると思うか (思う 18% 思わない 0%)

○生徒はわからないことがあったときは、積極的に自分から質問していると思うか

(思う 0% 思わない 18%)

○生徒は気づきや疑問を自分の言葉で発信しようとしていると思うか (思う 27% 思わない 9%)

○生徒は友達の発信をしっかりと聴き、それに反応したり、意見を述べたりしていると思うか

(思う 27% 思わない 9%)

(2) 昨年度の成果と課題

令和元年度の研修では「一人一人の言葉から、対話の生まれる授業づくり」というテーマのもと、全職員が「対話」を意識して各教科で研修を行ってきた。令和3年度からの新学習指導要領に向け、この1年間で「主体的・対話的で深い学び」のある授業をさらに意識して取り組み、学習評価についても準備をしておくことが大切であると考えた。

本年度の生徒対象の学校アンケートより、「授業が楽しい 81.7%」という結果から、授業への関心は高い方にあるといえる。その反面、「気づきや疑問を自分の言葉で発信している 65.4%」となり、授業の中では、自分の言葉で発信することを意識をしているが、なかなか実行に移せない生徒もいるのも現実である。そのため、「対話」を意識していくことを継続していく事で、この先も成長が見られると教師側は実感しているため、元年度取り組んできたことも継続していきたい。また、生徒の実態として、生徒は課題に対して精一杯取り組むが、自分から問いを立てる力は今後も意識して育てていく必要がある。「自分から課題を見つけ出し追求したい」「あのような美しい歌声で歌うためにはこのようにすればよいと思う」「自分だったらこのように表現したい」など主体性のある生徒を育成していきたい。

「対話」は、元年度も取り組んできたように、人との「対話」だけを示すのではなく、教材・モノとの対話、自己内対話など様々な対話を指す。対話は新たな知識や技能を獲得し、新たな問いや考えが生まれ、学びのサイクルとなる深い学びに向かうために必要不可欠なものである。また、元年度は、疑問や考えのずれが起こるしかけを工夫したり、生徒の言葉から生まれる学習課題を工夫したりすることで、教師が設定する対話の時間が深い学びにつながるがあった。本年度は、昨年度よりも一歩進むことを目指し、教師のしかけから、生徒から主体的に対話を「生み出す」ことを目指したい。そうすることで、学びが「自分ごと」となり、生徒自身が学びの実感をするのではないかと考える。また、授業を構想する際は、その時間に身につけたい力やその時の生徒の実態に基づき、どの場面でどのような対話を生み出したいのか考えていくことも大切にしたい。

(3) 本年度の学校教育目標・重点目標



学校教育目標「自ら考え、動く。人のために、自分のために」を受け、統一を図るために、重点目標を「自分から・・・」とした。主体的な対話をする姿を生み出すためには、自分から行動を起こすことが必須であり、また、頭で考えるだけでなく、身体、心も含め動きのある活動が必要となる。重点目標の授業の中で求める生徒の姿として、「自分から（仲間の意見や疑問に耳をかたむけ、応える）（考え・反応する）（自分の言葉で発信する）（友達と関わり、考えを深める）（追究する）（挑戦する）（課題を見つける）（作業、活動する）（問いを投げかける）」などが考えられる。生徒自身で考えることでより主体性が生まれるのではないかと考えるため、生徒自身にも自分の姿を想像して、目標を持たせていきたい。

(4) 新学習指導要領

我が国の人口減少やグローバル化、人工知能の発達など子どもたちを取り巻く環境の変化により、これまでどおりの学校教育だけでは、これから先の時代を生き抜くことは困難である。こうした状況を踏まえ、中央教育審議会答申では、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すこととした。それらをふまえ、今求められている授業改善について**学習指導要領改訂の基本方針③**の「(主体的・対話的で深い学び)の実現に向けた授業改善の推進」で6点のことに留意することが挙げられている。その中でもウ・エ・オについて記す。

ウ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察、実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。

エ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、**単元や題材など内容や時間のまとまりの中で**、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

オ 深い学びの鍵として「**見方・考え方**」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ、**教師の専門性が発揮されることが求められること**。

3 主体的な対話を生み出すための具体的な方策

(ア) **単元のゴールの姿を見通した単元デザインの工夫**

- ・教科のつながりを意識する。
- ・9年間の学びを意識する。

(イ) **パフォーマンス課題の工夫**

- ・教科に応じて「実技演奏」「レポート」「プレゼンテーション」「スピーチ」などを取り入れていくことで、生徒の学びに必然性が生まれ、主体的に取り組む姿が期待できる。またゴールに向かう自然な思考の流れも構想したい。評価の観点の「思考・判断・表現」を評価するにはこのような課題を設定することが必要になる。

(ウ) **場の設定**

- ・生徒にとって魅力のある教材との出会いの場を設定することで、生徒の知的好奇心を揺さぶる。生徒はその教材の魅力にひきつけられ、主体的に教材との対話を始めるだろう。また、他の考えに触れてみたいという状況をつくることで、友達との対話の必然が生まれることになる。
- ・生徒一人一人のつぶやきなど、生徒の言葉や、小さな問いから学習課題を設定する。
- ・問いがつながる展開を構想する。
- ・授業のどの場所で「対話」が生まれるのかを構想する。
- ・授業で何を学んだのかを明確にし、振り返ることで次の学びの意欲につなげる。また、その時間に分かったこと、または分からなかったことなど自分の学びについての自己内対話をすすしかけをしたい。

(エ) **課題解決への見通し**

- ・思考の方法を示し、課題解決への意欲をつなげ、見通しを持たせる。具体的な方法は以下に示す。

順序付ける	Aの次はBで
比較する	AとBを比べると (共通点や相違点など)
関連付ける	AとBをつなげると
多面的・多角的に見る	Aの立場、Bの立場から (Aの視点、Bの視点では)
理由付ける	AになるのはBだから
見通す	AならばBとなる
構造化する	A, B, Cをまとめると

(オ) **目的必要感**

- ・学んでいることが、生徒とどのようにリンクしているのか、または必要になるのかを明確にするために、生活と関連付けるなどして伝える。
- ・単元のゴールの姿を生徒と共有する。

(カ) **学習支援**

- ・学校全体として、「対話」を基本とした学びのイメージを生徒や教師がもてるように、各教室でコの字形を基本とする。ただし、学年の状況に応じて臨機応変に対応する。

全員が対話に参加でき、様々な視点から意見交換ができるように、各グループの人数は3～4人程度で、男女混合とする。座席は男女交互（市松模様）とする。

4 公開授業（一人最低年1回）について

授業案は作成しない。全員で参観する中心授業の時は、「授業デザイン」を出す。授業公開日の1週間前までを目安に作成する。

公開授業には、自習体制・時間割変更等に対応し、先生方が必ず参観し、授業中の生徒の学びを中心に参観することを心掛ける。その際には、**授業に立ち入らないこと**を心がける。また、公開授業以外でも『誰でも、いつでも、どこでも』参観しあう雰囲気、姿勢を心掛けていきたい。

【授業を見る視点と事後研修における視点】

1 主体的な対話はどこで生み出されていたか。

【話し合いの留意点】

研究協議の場では、視点に重点をおいて協議をしていく。その際、自分が授業で聞いた、もしくは見取った生徒の言葉・姿について述べる。生徒の姿を見取り、見取った姿に応じて教師の適切な関わり（補助発問、つなぐ言葉等）がなされていたか（見取りと関わり）、付けた力が付いたのか、生徒にとって学びが自分ごととなり、学びを実感することができていたのか等について協議することで、今後の授業改善につながる教師の学び合う場とする。

5 チャレンジテストについて

基礎学力向上、学習習慣の形成をねらいとし、20点満点のチャレンジテストを行う。

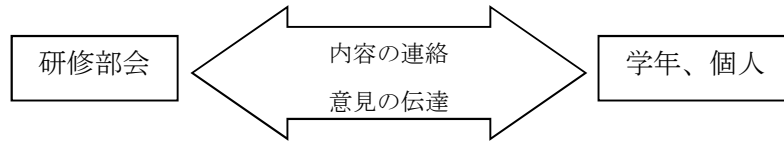
- ・国・数・英・理・社のテストを計画に沿って水曜日、朝自習の時間に行う。
- ・問題のレベルは、あくまで基礎学力が向上できるものとする。
- ・覚えるべき問題や範囲については、原則としてその前の週の木曜日に提示。
- ・教科担任が採点し、テストは担任へ返却。**教科担任は、結果をパソコンの表に打ち込む。**
- ・SSSに採点をしてもらうことも可能。
- ・前期、後期の終わりに、成績優秀者に賞状を与える。（総得点の90%以上獲得者）
- ・校務用パソコンにデータでテストを保存する。
- ・遅刻、欠席でテストが受けられなかった生徒については後日実施でもよいこととする。

6 新聞活用について

読解力・学力の向上を目的として朝日小学生新聞の天声こども語を活用する。計画に沿って水曜日の朝自習の時間に視写したり、要約や感想を書いたりする。また、学校司書や図書文化委員とも協力して、新聞記事の掲示や新聞コーナーの設置なども行い、時事に関心をもてるように支援していく。南校舎の掲示板も活用する。

7 研修組織

- (1) 推進委員 ◎研修主任、各学年研修部、教頭、校長
- (2) 研修部会 ○時間割の中に位置づけ、週に1度実施する。
○全体研修の進め方や内容の検討と準備
- (3) 研修組織
研修部会で話し合われたことを学年に伝え、また学年の意見を吸い上げ、研修部会に伝える。



- (4) 全体研修及び研修日
 - ・研修は年9回（うち2回は4校小中合同研修）
 - ・基本 水曜日 ・開始は原則として 〃 から
 - ・主な内容は授業参観→事後研修とする
 - ・研修を深めるために必要に応じて外部講師を迎える

8 研修計画について

授業改善を推進するために、一人一公開授業は継続する。また、外部講師は必要に応じて招聘する。
必要に道德の研修も取り入れる。

○週の朝計画

曜日	月	火	水	木	金
内容	・読書 ・打ち合わせ	・朝清掃	・視写 ・チャレンジテスト	・朝清掃	・よみきかせ ・読書

○校内研修の日程（案）

月 日	内 容	授業者
/ ()	職員会議（研修の概要と指針）	
4/22 (水)	AED研修	
5/27 (水)	校内研修①（公開授業）	先生
6/24 (水)	校内研修②（公開授業）	先生
6/1 (水)	4校小中合同研修（原田小）	
6/8 (水)	校内研修③（公開授業）	先生
9/9 (水)	校内研修④（公開授業）	先生
10/21 (水)	校内研修⑤（公開授業）	先生
11/18 (水)	校内研修⑥（公開授業）	先生
12/2 (水)	4校小中合同研修（吉原三中）	
1/13 (水)	校内研修（1年間を振り返って・次年度に向けて）	

●市教委訪問 中心授業… () 先生 ●一斉研… () 先生

※小中連絡推進について・・・原田小、吉永第一小、吉原第三、吉原東の4校での研修を年2回行う。

9 研修構想

吉原東中学校 研修構想

学校教育目標：自ら考え、動く。人のために、自分のために

東中研修テーマ

主体的な対話を生み出す授業の追求

静岡県

自分ごととして学ぶ子供

富士市

学び合い 学び続ける ふじの子

重点目標：「自分から・・・」

目指す生徒像

「自分から（仲間の意見や疑問に耳をかたむけ、応える）（考え・反応する）（自分の言葉で発信する）（友達と関わり、考えを深める）（追究する）（挑戦する）（課題を見つける）（作業、活動する）（問いを投げかける）」など、主体的に学ぶ生徒。

具体的な取り組み

単元のゴールの姿を見通した
単元デザインの工夫

パフォーマンス課題の工夫

課題解決への
見通し

場の設定

学習支援

目的必要感

生徒の実態

- 3年生は、自分の考えを持つことができるが、自分から積極的に発表、表現することは少ない。2年生は、他者と関わることは多いが、他者との対話が生まれる場面は少ない。
- 気づきや疑問を自分の言葉で発信している 65.4% ○授業が楽しい 81.7%
- 授業中、分かるまで粘り強く課題に取り組んでいる 77.9%